

令和元年七月投句

寝袋を六本並べバンガロー

夫と犬それぞれ寝莫塵よく眠り

囲碁を打つ商店街の涼み台

節子

鬼百合に雨降り止みて降り止みて

真理子

重たげにうなだれ雨の日車草

バンガローこんなところに泊まるとは

川蜻蛉揺れ綺羅と揺れ背の緑

悔いなしと言えぬ看取りや梅雨深し

花町の門の跡地にねむの花

勝利

百合好きな母に最期の百合を置く

由紀子

ひび割れて白き泥道凌霄花

流鏑馬の馬場に清めの白雨かな

星の出で少し恋してバンガロー

デイケアの模擬縁日のラムネかな

光子

眠られぬ夜の香水の重たかり